

平成25年度 公益財団法人滋賀県陶芸の森事業計画

公益財団法人 滋賀県陶芸の森

◇基本方針ならびに重点事項

陶芸の森は、滋賀県の伝統文化にして主要な地域産業である信楽焼をベースに、「陶芸文化創造の世界的拠点」となることを目指し、自然の中で創造と遊び、文化と産業が一体となった多様な機能をもつ公園として、またこれまで蓄積してきた情報収集力、技術力や国内外の人的ネットワーク、研究成果、収蔵作品等の活用、施設管理などのノウハウを基盤にしなが、陶芸館、信楽産業展示館、創作研修館の三つの施設の運営を通じて県民の陶芸に対する理解と親しみを深め、広く陶芸に関する交流の場として、地域性と国際性および現代性を備えた魅力ある事業の積極的な展開を図り、陶器産業の振興と陶芸文化の向上に寄与する。

平成25年度は県および甲賀市からの指定管理第2期の3年目にあたる。当財団を取り巻く環境の変化を踏まえ、第Ⅱ期中期経営計画に基づき、目標達成に向け着実に事業を推進するとともに、公益財団法人としてのメリットを活かし、「陶芸の森やきもの振興基金」を立ち上げるなど、財源確保に努める。また10月から開催される第2回信楽まちなか芸術祭の主要会場の一つとして、滋賀県の伝統文化である信楽焼の魅力を紹介していく。

I. 県民に親しまれる施設運営に関する事業 【施設利用促進事業 14,171千円】

太陽の広場や星の広場など人々が自由に憩い楽しめるよう公園機能の充実を図り、また施設を安全かつ清潔に保ち、植栽の維持管理に努め、入園者に快適な空間の提供とサービスの向上に努める。

1. 公園機能の充実

(1) 陶芸作品の野外設置

陶芸の森という施設の名にふさわしく、陶芸家の創作作品の野外設置を進め、いわば野外美術館として、自然の中で広く県民が芸術作品を鑑賞できる機会を提供する。

(2) ボランティア活動推進事業

来園者に対するサービス向上と陶芸文化の普及活動のため、展覧会展示解説、連携授業補助、園内の案内およびPR活動、陶芸館展示監視補助、園内園芸作業などボランティアによる活動支援を受け、利用者へのきめ細かなサービスを提供する。また活動の推進やボランティア同士の連携を目的としたミーティングを開催し、ボランティア活動の向上のための研修を実施する。

(3) 窯の広場の充実のためのスイッチバックキルン築窯

陶芸の森園内、泉の広場周辺には、穴窯をはじめとする薪窯が5基点在しているが、これらはすべて現在使用している窯であり、これら窯の構造やその魅力を広く県民に伝えるために、解説用の看板等の更新をおこなうとともに、今後窯の広場としての充実を図っていくため、スイッチバックキルンの築窯をおこなう。

2. 地域の観光拠点としての集客促進事業

信楽焼の抱える滋賀県南部地域の観光拠点としての陶芸の森は、いかに地域資源を活かしながらリピーターをつくっていくことが課題となっている。

集客促進のひとつとして、やきものファンに信楽をより知ってもらうために、各種体験講座や陶器市、様々なレクリエーションイベントを開催し、来園者にとって魅力的な陶芸の森を創っていく。また、甲賀市やびわこビジターズビューロー、観光協会等と連携し、陶芸の森の魅力発信をおこない、誘客促進に努める。

(1) しがらき体験 しがらき学ノススメ！

陶芸の森の施設を活用して信楽焼について広く学んでもらえるように陶芸制作講座を開催する。初心者から楽しめるためぎづくりや技法別の講座、また穴窯による作品の制作など幅広いテーマを取り上げる。団体向けには、目的にあった講座を別途受け付けることで増収を図る。

平成25年度は初心者が参加しやすい「入門講座」を設けるとともに、第2回信楽まちなか芸術祭の関連事業として講座を実施する。

ア. 実技講座シリーズ

やきものについて、広く学ぶことができる実技講座を開催する。内容については、初心者向けの講座から、一步踏み込んだ高度な技術を伴う講座まで開催する。

(ア) 手びねりでうつわをつくろう！ 【入門講座】

陶芸初心者を対象にした入門講座として開催。食器づくりや花器づくり等をテーマに取り上げ、やきものを制作する基本技法である手びねりの習得をめざす。

<開催日> 平成25年6月23日(日)

(イ) 自分のためぎをつくろう！ 【入門講座】 (第2回信楽まちなか芸術祭関連)

広く一般に、陶芸について興味や陶芸の森の事業について知ってもらうための陶芸入門者向けの講座として実施。生のためぎの素地に土をたして、顔を変えたり、色を塗ったりして世界に一つしかない自分だけのオリジナルなためぎを制作する。第2回信楽まちなか芸術祭関連として実施する。

<開催日> 平成25年10月6日(日)

(ウ) 技法別講座 ミニ窯をつくろう！

手びねりでぐい呑み数個が焼けるミニ窯をつくる。後日窯を素焼して、炭を燃料にした焼成をおこない、窯の仕組みの理解と焼成を体験してもらう。

<開催日> 平成26年3月9日(日)

(エ) 技法別講座 イッテコイ窯焼成講座

イッテコイ窯で作品を焼成する講座を開催。粘土3kgを使い、茶碗、食器など自由に作陶し、必要に応じて施釉し、イッテコイ窯で焼成することで、薪の単窯での焼成の妙味を体験してもらう。

<開催日> 平成25年12月7日(土)

(オ) 技法別講座 上絵付けに挑戦！

お皿に上絵付けの技法で絵付けをします。

<開催日>平成25年7月28日(日)

(カ) 技法別講座「陶芸館特別展」 関連企画 「練りこみ技法でうつわをつくろう」

練り込みの技法で皿や鉢などのうつわをつくります

<開催日> 平成25年7月14日(日)

(キ) 技法別講座 ラク焼講座

粘土3kgで茶碗を制作し、後日、ラク焼で焼成する。茶碗の制作とともにラク焼の焼成技術習得をめざす。

<開催日> 平成25年5月26日(日)

平成25年9月21日(土)

(ク) スイッチバックキルン築窯・焼成講座

スイッチバックキルンについては、炊き口が窯の前後についている特殊な窯であり、短時間での焼成が可能である。特に信楽焼の焼き締め作品では、作品に表裏ができるが、この窯を使った場合、全体に灰がのるために、今までとは異なるイメージの信楽焼が焼ける可能性が高い。築窯作業は講座形式で受講者にも参加してもらい、窯完成後、自らの作品を窯詰焼成を体験し

てもらう。

<開催日> 平成 25 年 9 月中旬

イ. 穴窯体験講座の開催

信楽焼の伝統技術、歴史を広く一般の方に知ってもらうため、信楽町内在住の陶芸家による指導のもと実際に作品をつくり、穴窯で焼成をする体験を通じて知識と技術の普及と公開を図る。

初級、中級、上級講座と、各クラスに分けて募集する。初級については、初心者の方を中心にわかりやすい作り方の指導をおこない、信楽焼に対する関心、理解を深める。中級は、一步踏み込んでより高度な技術の習得をめざし花瓶などを制作する。また、上級講座では、大壺などを制作し、高度な技術の習得をめざす。

<開催日>

初級講座	平成 25 年 10 月 19 日 (土)
初級講座	平成 25 年 11 月 3 日 (日)
初級講座(干支をつくる)	平成 25 年 11 月 24 日 (日)
中級講座	平成 25 年 11 月 17 日 (日)
上級講座	平成 25 年 10 月 26 日 (土)、27 日 (日)

ウ. 穴窯焼成クラスの開催

焼成クラスについては、穴窯体験講座のリピーター等の経験者を対象に、一定量の粘土を渡し各々が作品づくりをおこなうだけでなく、自ら穴窯での焼成することにより、薪による焼成技術の習得もめざす。年度の前半と後半の 2 回開催することで穴窯講座のリピーターの受け皿として機能させていく。

<開催日> 前期	説明会	平成 25 年 6 月 15 日 (土)
	焼成	平成 25 年 9 月 12 日 (木) ~16 日 (月)
後期	説明会	平成 25 年 11 月 12 日 (土)
	焼成	平成 26 年 3 月 19 日 (木) ~23 日 (日)

エ. 登り窯講座

信楽焼の伝統に基づき表現の幅を広げるため、従来から穴窯を積極的に活用してきたが、信楽町内在住の陶芸家による指導のもと実際に作品をつくり、登り窯(火袋、一の間)で焼成する体験を通じて登り窯の知識と技術の普及および公開を図る。

講座は、初級、上級講座に分けて募集する。初級については初心者の方を中心にわかりやすい作り方の指導をし、信楽焼、登り窯焼成に対する関心、理解を深めてもらう。上級は、一步踏み込んでより高度な技術や大物の制作技術の習得をめざす。

平成 25 年度については、公民館活動などのグループでの参加を募り、ひとたて(棚板約 3 枚) 30 kg の粘土で自由に作陶してもらい(粘土の受け渡しはなし)、火袋、いちの間に作品を詰め焼成する。(初級講座 A 1 回、中級 1 回、上級 1 回開催)

<開催日>

初級講座	平成 25 年 8 月 18 日 (日)
中級講座	平成 25 年 9 月 8 日 (日)
上級講座	平成 25 年 8 月 24 日 (土)、25 日 (日)

オ. 団体による受付等

団体向けには、目的にあった講座を別途受け付けることで増収を図る。また大学等からの要望で実技を含む講座については、「しがらき学ノススメ」の枠組みで受け入れる。

カ. しがらき体験 しがらき学ノススメの PR

「しがらき学ノススメ」の講座等について、広く知っていただき、幅広く参加者を募集するためのチラシを制作し、県内の公民館、各地の陶芸教室等に配布し、積極的な PR に努める。

(2) イベントの開催・誘致

陶芸の森を舞台に軽スポーツ、芸能、レクリエーションなど各種イベントの自主開催や公園利用者にとって魅力的で集客効果が見込めるイベント等を誘致する。特に春の連休に、地域グループの主催による陶器市を開催する。

ア. しがらき作家市 in 陶芸の森の開催 【収益事業】

信楽町内の陶芸家を中心に組織しているしがらき作家市 in 陶芸の森実行委員会と共催で、5月の連休に「手づくりのやきもの」を販売するイベントとして開催する。

開催日 平成25年5月2日(木)～5日(日)

主催 しがらき作家市 in 陶芸の森実行委員会

後援 (公財) 滋賀県陶芸の森

イ. セラミック・アート・マーケットの開催(第2回信楽まちなか芸術祭関連)【収益事業】

「作品に触れ作家に触れる」をテーマに滋賀県内の陶芸家を中心とする工芸家が、自らつくった質の高い作品を販売する「作り手と使い手の出会いの場」として「第2回信楽まちなか芸術祭」に併せて開催し、一体感あるPRをおこない、集客に努める。

開催日 平成25年10月12日(土)～14日(月・祝)

主催 (公財) 滋賀県陶芸の森

後援 滋賀県、甲賀市、信楽まちなか芸術祭実行委員会、陶器祭実行委員会

ウ. 2013 わくわくウォーキング in 陶芸の森

陶芸の森の園内および周辺散策路や観光ミニ冊子「陶芸の森うお～か～」を有効活用し、ウォーキングを通して園内の豊かな自然を満喫してもらう。また歩きながら野外に設置された数々の陶芸作品を鑑賞したりニュースポーツを体験してもらうなど、幅広い年齢層が楽しめる企画として実施する。

エ. 陶芸の森フォトコンテスト

四季折々の変化に富み、豊かな自然に恵まれた陶芸の森を素材として、フォトコンテストを行い、それをきっかけとして陶芸の森の魅力発信と公園機能の活用を図る。

(3) 作品の貸出事業

県民に気軽に陶芸作品に親しんでもらえるよう、創作研修館で制作されたスタジオ・アーティストの研修作品やゲスト・アーティストの作品を、ホテル、公共施設等に貸出しを行い、陶芸文化の普及向上に努める。

(4) ホームページ・バナー広告 【収益事業】

陶芸の森ホームページに協賛広告を募集し、よって収入の増を図る。

(5) 観光および集客促進のための広報活動

滋賀県南部地域の観光拠点としての陶芸の森を広くアピールし、多くの観光客を集客するために新聞等の媒体への広告をおこなうとともに、地元甲賀市や観光協会等と連携した誘客活動をおこなう。また、びわこビジターズビューローを通して観光案内チラシなどを旅行社等向けに配布し、団体客の誘致にむけ積極的なPRに努めるとともに、ミホミュージアムと連携をおこない、集客促進を図る。

また展覧会情報や各種講座等、施設紹介やイベントの案内あるいは陶芸館所蔵作品などをタイムリーにかつわかりやすく情報提供できるよう、ホームページの充実や収蔵品データベースの充実を図る。

(6) 図書室の運営

陶芸に関する専門機関の図書室として、専門書など蔵書の一部を貸し出すことで、業界や一般に広く陶芸文化の普及を図る。

(7) レストランへの施設貸与 【収益事業】

甲賀市の許可を得た業者に信楽産業展示館内の一室をレストランとして貸与し、来園者へのサービス向上と陶芸の森への集客を図る。

(8) 信楽ホールの活用 【収益事業】

県民の陶芸に対する理解と親しみを深めてもらい文化の向上を図るとともに陶芸に関する交流の場とするため、信楽ホールの活用を図る。

3. 施設の管理 【一般管理、施設維持管理計 146,024千円 信楽産業展示館管理 18,540千円】

陶芸の森が、地域の産業、文化および観光の拠点施設として機能し、来園者にとってもやすらぎ感のある施設となるよう良好な状態を維持し、一層の利用が図られるよう、日々巡回しながら適切な維持管理に努めるとともに、各施設のバリアフリーにも配慮し、子どもや高齢者、障害者の方にも利用しやすい施設管理に努める。また経年劣化による各施設の修繕箇所等の把握に努め、高額な修繕費がかかる場合は、県および甲賀市に対して予算措置の依頼をおこなう。

さらに、陶芸の森全体の見所などをおさめた観光ミニ冊子「陶芸の森うお〜か〜」等を活用し、親切で丁寧な園内の案内と誘導に心がけ、園内全体のインフォメーション機能の向上を図り、また利用者からの要望等については、迅速かつ適切に対応できるよう情報の共有化を図り、利用者にとって快適なサービスの提供に努める。

4. 陶芸の森やきもの振興基金の創設

平成24年4月に公益財団法人に移行したことを契機に、陶芸の森での様々な事業活動にご支援をいただくための寄付金をお願いするため、陶芸の森やきもの振興基金を創設し、運営を行う。

II. 陶芸文化の発信事業

1. 展覧会開催事業 【展覧会開催事業費 44,119千円】

これまでも時代の動きをいち早くとらえながら、産地への刺激を意識し、地域産業の振興にリンクするテーマによる展覧会や、滋賀の魅力である近江のやきもの文化や歴史、滋賀県在住の作家たちなど地域に根ざした展覧会を展開してきた。陶芸館では、幅広く国内外の多彩なやきもの文化の魅力を新しい視点を交えながら、分かりやすく紹介する展覧会を企画発信していく。

平成25年度は、春季特別展「フランス印象派の陶磁器 1866-1886 ジャポニスムの成熟」で、フランスの印象派の芸術家らが関わった陶磁器を全国巡回に先駆けて当館にて展示する。特別企画展「あれもやきもの これもやきものー陶芸の森アーティスト・イン・レジデンス 20年のあゆみ」では、注目されている中堅・若手アーティストを中心に彼らの作品とその取り組みを紹介。創作研修活動の成果から最新の陶芸事情を探ることを試みる。秋の特別展「酒器の玉手箱」では、陶芸ファンの裾野を広げるための「人生を楽しむ・やきものシリーズ」の第1弾として、江戸時代後期から昭和前期を中心に日本各地で作られた多彩な酒器を一堂に会する。春の特別企画展「信楽焼の美」／「現代イギリスの陶芸〜バーナード・リーチから若手作家まで」では、2つのコーナーから信楽焼の魅力と、陶芸の森のコレクションにこれまでの滞在作家作品を加えながらイギリスの陶芸を紹介する

陶芸館では、これらの展覧会を通して、これまで紹介することのなかった新しい視点から陶芸を紹介し、やきもの文化の幅広い魅力をさらにアピールする。

また当館で企画した「陶芸の魅力×アートのドキドキ」展と「(仮称) THE YUNOMI 湯呑茶碗」展を他館に巡回する。

来園者の少ない冬季（12月中旬～3月上旬）には陶芸館を休館し、収蔵品の状態チェック、陶芸に関する調査、普及活動、展示設備点検にも力を入れる。

(1) 特別展「フランス印象派の陶磁器 1866-1886 ジャポニズムの成熟」

＜開催期間＞ 平成 25 年 3 月 9 日（土）～6 月 9 日（日） 81 日間（平成 24 年度からの継続）

1870 年代までは豪華な磁器製のテーブルウェアメーカーとして名を馳せていたアビランド社が、それまでの上質な透明感のある生地とは異なる、テラコッタを生地とした当時はまだ正統と認められていなかった印象派スタイルの絵付けや、当時一世を風靡していたジャポニズムの絵柄をモチーフとした。本展では、主にアビランド社の作品を通して、ジャポニズムの成熟と印象派の画家たちの新しい芸術への挑戦に刺激を受けた陶芸への取り組みなど、ヨーロッパにはなかった新しい陶芸の探求に果敢に取り組んだ作品の数々を紹介する。

(2) 特別企画展「あれもやきもの これもやきものー陶芸の森アーティスト・イン・レジデンス 20 年のあゆみ」

＜開催期間＞ 平成 25 年 6 月 18 日（火）～9 月 23 日（月・祝） 86 日間

滋賀県立陶芸の森は美術館と滞在型スタジオを備えた、全国でも数少ないやきものを専門とする県立文化施設である。平成 4（1992）年の開設以来、アーティスト・イン・レジデンス事業を通して国内外から数多くのアーティストが信楽の地を訪れ、滞在しながら制作活動を展開してきた。これまで陶芸の森が受け入れてきたアーティストは、これまでに 48 カ国 860 人以上。その取り組みは国内だけに留まらず、広く海外でも認知されている。また、地域文化の活性化への貢献も大きく、新たな滋賀（信楽）の伝統も芽吹きつつある。本展では、近年注目されている中堅・若手アーティストを中心に、彼らの作品とその取り組みを紹介。創作研修活動の成果から最新の陶芸事情を探ることを試みる。

(3) 人生を楽しむ・やきものシリーズ① 特別展「酒器の玉手箱」

（第 2 回信楽まちなか芸術祭関連）

＜開催期間＞ 平成 25 年 10 月 2 日（水）～12 月 15 日（日） 65 日間

日本の豊かな器文化を紹介し、やきものファンの裾野を広げるための「人生を楽しむ・やきものシリーズ」の第 1 弾として、日本人の精神文化とも深く結びついてきた酒器にスポットをあてる。生活の節々にどのように酒器が取り入れられた来たのかを探りながら、徳利や盃、銚子など江戸時代後期から昭和前期に日本各地でつくられた多彩な酒器の数々を紹介する。本特別展については、第 2 回信楽まちなか芸術祭関連事業と位置づける。

(4) 特別企画展「信楽焼の美」／「現代イギリスの陶芸～バーナード・リーチから若手作家まで」

＜開催期間＞平成 26 年 3 月 8 日（土）～6 月 22 日（日） 94 日間（平成 26 年度へ継続）

「信楽焼の美」展では、当館の収蔵品の中から古信楽の大壺や近年収蔵品に加わった信楽の代表的な薪窯作家の作品を紹介する。引き続いて「現代イギリスの陶芸～バーナード・リーチから若手作家まで」と題して、イギリス陶芸の巨匠バーナード・リーチからルーシー・リー、アリソン・ブリソンといった代表的な作家の他、そして陶芸の森で滞在制作した若手作家までを展覧し、イギリス陶芸を紹介する。

(5) 巡回展企画事業

ア・「(仮称) THE YUNOMI 湯呑茶碗」展の他館への巡回開催

明治末から昭和前期にかけて収集された日本全国の湯のみ茶碗で構成される陶芸の森の湯呑みコレクションから、優品約 280 点をセレクトして巡回開催する。

＜巡回期間＞ 福井県陶芸館 平成 25 年 7 月 13 日（土）～9 月 1 日（日）

姫路市書写の里・美術工芸館 平成 25 年 10 月 19 日（土）～12 月 1 日（日）

イ. 「陶芸の魅力×アートのドキドキ」展の他館への巡回開催

画家や彫刻家らの陶芸作品とアートに影響を受けた日本、アメリカ、ヨーロッパの陶芸の森コレクションを中心とした陶芸作品を紹介した平成 24 年度の展覧会で、国内 2 会場へ巡回する。

<巡回期間> 岐阜県現代陶芸美術館 平成 25 年 5 月 25 日 (土) ~ 8 月 25 日 (日)

兵庫陶芸美術館 平成 25 年 9 月 7 日 (土) 日 ~ 11 月 24 日 (日)

(6) 陶磁ネットワーク会議への参加

<本会議開催> 平成 25 年 6 月 (予定)

平成 20 年度に結成された国内 8 館の陶磁器専門公立美術館・博物館による「陶磁ネットワーク会議」は、加盟館の交流や情報交換を深め、共同企画展の立案・開催、共同研究、各館所蔵品の相互利用、緊急時の協力などを目的とする。

本年度は佐賀県立九州陶磁文化館で開催予定の本会議への出席、平成 26 年度開催予定の共同企画展「(仮称) やきもの美術館の旅」の開催準備や共同研究「現代陶芸」の打合せ等への出席を予定している。

<参加館>

滋賀県立陶芸の森、兵庫陶芸美術館、愛知県陶磁資料館、岐阜県現代陶芸美術館、福井県陶芸館、茨城県陶芸美術館、山口県立萩美術館・浦上記念館、佐賀県立九州陶磁文化館

(7) 収蔵品収集(管理)事業

陶芸館では、収蔵品収集に際して、国内外の陶芸に造詣が深い学識経験者や美術館館長らで組織される陶芸館収蔵品収集審査会を 2 年に 1 回開催し、収蔵候補作品について審議している。なお、価格評価については、外部の有識者で構成される収蔵品価格評価委員により審議を行っている。

危機管理への対策も計画的に実施し、盗難及び地震対策、カビや共箱の虫食い防止など、収蔵作品の安全確保と保全に種々の対策を講じている。また、今後も継続して収蔵品(収蔵庫)の点検整理作業を実施し、作品の点検と保存環境の整備に努めるとともに、展示什器や機器の整備も行う。

(8) 陶芸館ギャラリー企画展

陶芸館ギャラリーは、気軽に利用できる館内唯一の無料展示スペースである。これまで陶芸の森の役割や事業を、入館者に理解して戴く情報発信の場として活用してきた。今年度も県内若手中堅アーティストの展覧会、アーティスト・イン・レジデンスや普及啓発事業の成果展を開催し、陶芸の森の独自性をより明確に内外に示していく。

(内容及び開催期間)

ア. 「シリーズ湖国の陶芸家—現代へのつくり手達の眼差し」

<開催期間> 第 8 回: 平成 25 年 10 月 5 日 (土) ~ 11 月 4 日 (月祝) 27 日間

第 9 回: 平成 25 年 11 月 9 日 (土) ~ 12 月 15 日 (日) 32 日間

内容: 滋賀の中堅・若手陶芸家の新作を紹介。彼らのやきもの観や胎動する湖国のやきもの像を探りながら、県内陶芸家の最新情報の収集と発信を試みる。秋に 2 回 2 名の陶芸家を紹介予定。

イ. 「子どもたちの土の造形—本物との出会いから展」

<開催期間> 平成 25 年 7 月 20 日 (土) ~ 8 月 25 日 (日) 33 日間

内容: 小学校との連携授業や宝物づくり事業など、陶芸の森が他に先駆けて取り組んできた独自の普及啓発事業の成果を、子どもたちが制作した作品を通して内外に発信する。

ウ. 「アーティスト・イン・レジデンス企画展」

<開催期間> 桑田卓郎展 平成 25 年 6 月 18 日 (火) ~ 7 月 15 日 (月祝) 25 日間

黒川 徹展 平成 25 年 8 月 29 日 (木) ~ 9 月 23 日 (月祝) 23 日間

内容: 平成 24 年度にゲスト・アーティスト(公募制による)が創作研修館で滞在制作した作品を発表する成果展。

(9) 特別鑑賞塾

陶芸館では、収蔵品を手にとって、学芸員による解説を聞きながら鑑賞し、作品をより身近に感じてもらい、また技法や作者に近づける取り組みとして、特別鑑賞塾を有料で開催する。

<開催期間> 第13回：平成25年7月5日(金)、7月7日(日)

第14回：平成25年11月15日(金)、11月17日(日)

(10) 博物館実習

陶芸館では、平成7年度から実習生の受け入れを行っている。これまで、関西圏を中心に21大学・119名を実習生として受け入れてきた。今年度も5名程度を受け入れ、展覧会と普及啓発についての講義、また作品の取り扱いと梱包や調書の作成など、実物資料を扱う実技演習をおこなう。

<実施期間> 平成25年8月27日(火)～8月30日(金) 4日間

(11) カタログ販売

これまでの特別展等の展覧会カタログをミュージアムショップで販売する。

2. 創作事業 【創作事業 8,444千円】

(1) アーティスト・イン・レジデンス事業

陶芸の森では、国内外の陶芸家、美術家の招聘および受け入れをおこない、平成4年以降48カ国、860人を超える国内外の陶芸家らが参加してきた。

陶芸家らが信楽に一定期間滞在制作することから、滋賀県あるいは信楽、また日本のやきもの文化に理解を深めてもらう機会ともなり、情報発信としての役割も担っている。

現在、レジデンスを体験した陶芸家たちによる緩やかなネットワークがあるが、インターネット等を利用してこのネットワークを強化していく。また、アトリエ・ダールやIAC(国際陶芸アカデミー)と連携を図りながら、活動を強化し、PRに努める。

対地域としては、「創作研修館オープン・スタジオ」の日として、2ヶ月に1回程度、スタジオ公開日を設け、信楽焼産地を含めた交流の場として育てていく。

また、情報閲覧室を活用し、釉薬や粘土のテストピースなど情報提供することで、レジデンスで来館した作家はもとより産地内の作家ら、つくり手に対して、レジデンス事業の価値を高めていくとともに、創作研修館のスタジオを、滞在する国内外の陶芸家たちと信楽焼の将来の担い手となる若手の技術者らとの交流を推進する場として提供することで、信楽焼陶器産業の活性化を図る。

平成25年度においては、陶芸館にて「あれもやきもの これもやきものーアーティスト・イン・レジデンス20年のあゆみ」展が開催されることから、過去に滞在した作家によるワークショップを開催する。また、10月から第2回信楽まちなか芸術祭が開催されることもあり、信楽焼関係者とレジデンス関係者の交流を深めるきっかけとする。

これらの事業をとおして、陶産地である信楽のアーティスト・イン・レジデンスとして新しい陶芸文化の創造につなげていく。

ア. スタジオ・アーティストの受入れ 【収益事業】

スタジオ・アーティストについても30名程度を受け入れる。また、平成26年度の募集活動として陶芸関係の学科を持つ大学や研究所を訪問し、陶芸以外に彫刻専攻の学生等についても展覧会等の機会を捉えて積極的にPRをおこなうことでスタジオ・アーティストの確保に努める。

また、来館したスタジオ・アーティストについては、制作の目標設定から制作にいたる行程管理をおこない、陶芸の森での制作をできる限り充実させたものとするような体制を組み、陶芸の森内外での個展等の開催ができるようにフォローする。完成した作品のうち優秀なものについては財団の収蔵品とし、展示、貸出し等に活用する。

イ. ゲスト・アーティストの招聘

今年度は、以下の6名のアーティスト(うち2名は公募枠)を新たに招聘する。制作の方向性の異なる作家を招くことで伝統から前衛まで幅広いやきもの分野を横断できるようにな人選とした。

また、平成26年度のゲスト・アーティスト(公募分)について、募集審査をおこなうほか平成26年度から27年度のゲスト・アーティスト(推薦分)について推薦ならびに選考をおこなう。

- ・ ギャレット・マスターソン(アメリカ)(平成24年度から継続)
- ・ イケムラ・レイコ(ドイツ在住)(平成24年度から継続)
(来園予定:平成25年4月~6月)
- ・ キャサリン・サンドラス(アメリカ)+宮本ルリ子(滋賀県)〈公募枠〉
(招聘予定:平成25年6月~8月)
信楽で開発された「透土」を活用して2人のアーティストのコラボレーションで、板状のスクリーンに模様を描く作品を制作する。このことで、「透土」のアート作品への活用の可能性を見出したい。
- ・ 野口悦士(鹿児島県)〈推薦枠〉(招聘予定:平成25年9月~10月)
窯の広場の関係でスイッチバックキルンという新しい形式の薪窯を築窯する。この窯の形式は野口悦士氏の発案によるもので、同氏は、種子島他で実際に築窯、焼成の経験があることから、この窯の築窯の指導を願う。
- ・ ファウスト・サルヴィ(イタリア)〈推薦枠〉(招聘予定:平成25年9月~11月)
イタリア在住の作家でスタイリッシュな作品をつくる。壁面作品によいものが多い。また、アメリカや韓国でワークショップやレクチャーなどの経験も豊富であることから、当館のレジデンスでも信楽を意識した作品を制作してくれると考える。
- ・ キム・シモンソン(フィンランド)〈推薦枠〉(招聘予定:平成25年10月末~12月)
キム・シモンソンは、フィンランド在住の彫刻家で、少女や動物のフィギュアをつくることで知られている。また、日本の文化の一つであるマンガに影響を受けているとされる。シモンソンの、フィギュアには、その少女と社会との関係性を問うている。一見、かわいらしく見える少女像だが、社会批評的なメッセージが込められている。
- ・ 長澤和仁(滋賀県)〈推薦枠〉(招聘予定:平成26年1月~3月)
泥しょう鑄込みによる成形を作品の基本としている作家は、あまりいない。型を使った磁器の鑄込み技法を研究し、鑄込み成形からくるゆがみを意図的に利用し曲線の美しさを生かした作品が高く評価されている。03年には県芸術文化選奨文化賞を受けている。鑄込みの技術を紹介するには適しているため。
- ・ カオ・エリック(中華人民共和国)〈公募枠〉(招聘予定:平成26年1月~3月)
近年、中国からもスタジオ・アーティストを受け入れるようになってきたが、招聘するのは、同氏がはじめてである。最近の成長著しい中国の現代陶芸の実情をみる機会として今回招聘するものである。

ウ. 国内外の機関との連携強化等

すでに陶芸の森と関わりのある、国内外の諸機関(IAC 国際陶芸アカデミー、アトリエ・ダール等)と引き続き連携し、陶芸家の受入れをすすめることで関係の強化を図る。

エ. 地域での情報発信

(ア) 創作研修館オープン・スタジオ

地場産地対応として「創作研修館オープン・スタジオ」の日を設け、2か月に一度スタジオを公開し、滞在作家や、職員によるレクチャーやワークショップを行って産地後継者とアーティストの交流をはかってゆく。また本年度は第2回信楽まちなか芸術祭期間中に開催し、薪窯へ

の理解を深めてもらうためのリレートークも実施する。

(1) オープン・スタジオ日程

平成 25 年 5 月 19 日 (日)

平成 25 年 7 月 7 日 (日)

(陶芸館特別企画展「アーティスト・イン・レジデンス 20 年のあゆみ」展の出品者×3 人による)

平成 25 年 7 月 17 日(水)18 日(木)〈オープン・スタジオ with 信楽高校〉

登り窯、金山窯等焼成事業の関係で伝統的な壺等をつくるワークショップを開催する。講師は、作家協会会員を予定

平成 25 年 9 月 8 日(日)

平成 25 年 12 月 1 日 (日)

平成 26 年 3 月 2 日 (日)

平成 26 年 3 月 23 日 (日)

(2) リレートーク「(仮) 薪窯についてーその歴史と可能性」

(第 2 回信楽まちなか芸術祭関連)

<開催日> 平成 25 年 9 月 22 日 (日)

金山窯について 畑中英二 (滋賀県文化財保護課主査)

登り窯の歴史 河原正彦 (滋賀県立陶芸の森芸術顧問)

スイッチバックキルンについて 野口悦二 (陶芸家)

薪窯の可能性 松井利夫 (陶芸家、京都造形芸術大学教授)

(イ) 情報閲覧室およびやきもの技術相談員制度の活用

平成 22 年度に開設した情報閲覧室を継続して整備、充実させ来館する作家はもとより、産地内の作家や製陶メーカーに活用してもらうとともに、やきもの技術相談員を活用し信楽で培われた貴重な技術の継承と指導をスタジオ・アーティスト等に対しておこなう。

(ウ) 信楽焼の担い手たちとの交流 (第 2 回信楽まちなか芸術祭関連)

信楽焼の将来の担い手となる若手の技術者や作家等と滞在する国内外の陶芸家らとの交流を推進する場として、創作研修館のスタジオを提供し、お互いの感性を磨き、信楽焼陶器産業の活性化を図る。本年度は、第 2 回信楽まちなか芸術祭の一環として、信楽陶芸作家協会の協会会員が共同で大壺を制作し会期中に展示する予定である。このイベントに陶芸の森のスタジオ・アーティストが制作に加わることで信楽焼の担い手たちとの交流を図る。

3. 子どもやきもの交流事業 【子どもやきもの交流事業 5,586 千円】

陶芸の森の特性を活かして、やきものに関する鑑賞教育や体験教育をさまざまな形で積極的に行う。学校との連携プログラムをさらに充実させ、信楽焼をはじめとした陶芸文化の普及や、陶芸の森へのリピーターを促進し、次世代に亘る陶芸の森ファンの獲得につなげる。

また、アール・ブリュットとして評価をされている障がいをもつ人々の芸術の素晴らしさは、滋賀では陶芸作品から最初に見出されてきたことから、当館ではさらにその魅力を広く展示などで発信する機会を設けるとともに、その土の造形を造り出すきっかけを増やすという観点から、「世界にひとつの宝物づくり事業」とともに、子どもたちや障がいを持つ人の造形活動を支援していきたいと考える。

(1) 「本物と出会うー総合的学習プログラム事業」宝物事業と連携

年々、陶芸の森の「本物と出会うー総合的学習プログラム事業」への参加校が増えてきている。陶芸の素晴らしさや、陶芸の森を広めるために学校への出張授業、学校が来園して行う来園プログラムを継続し、さらに美術館の事業として内容を吟味しながら進めていく。「世界にひとつの宝物づくり事業」と連携をとりつつ、本事業では、新規のプログラムの開拓などを中心に担当する。

これにより、信楽へ来て来館するきっかけづくりにつながる来園プログラムについても、同様に継続していく。

また陶芸館ギャラリーを活用した、連携授業の成果展を開催し、学校だけでなく親とともに子どもたちが陶芸の森に来館することを目指し、来園者の新規開拓、展覧会への動員につなげるものとする。

- ・ 連携授業の新規プログラムの開拓など
- ・ 連携授業の講師養成事業
- ・ 学校からの来園プログラム
- ・ 陶芸館ギャラリーを活用した連携授業の成果展の開催
- ・ ねんどと遊ぶ事業

(2) 夏季研修会－美術館との総合的学習のあり方を探る

世界にひとつの宝物づくり事業と連携

<開催期間> 平成 25 年 8 月 7 日 (水)

学校教育や社会教育、美術館・博物館に携わる関係者を対象に、参加者が実際に本物に触れるなど、実践をとおして陶芸や美術が子どもの健全な成長に果たすための美術館の役割を考えていく。この研修会は、ミホミュージアムと連携し、陶芸の森では展覧会見学とワークショップで構成する。事業の運営は、世界にひとつの宝物づくり事業と連携をし、両者の広報活動として広げていく。

なお、この研修会に併せて連携授業等で制作した子どもの作品を夏休み企画としてギャラリーで展示発表する。

Ⅲ. 産業の振興に関する事業 【陶芸産業振興事業 1,498 千円】

信楽焼の生産額は、安い海外製品の流入や消費者の嗜好の変化などから最盛期の約半分程度まで落ち込んでいる。

このような状況の中で、信楽焼の持っている伝統技術を将来に継承し、人材育成を図ること、いわば将来の発展への足場強化を目的に、信楽高校デザイン科の外部研修の受け入れ、また本年度は、第 2 回信楽まちなか芸術祭の関連として信楽陶器工業協同組合青年部、信楽陶芸作家協会を中心に登り窯・金山窯等焼成事業を実施する。

また、信楽産地の新製品開発をデザインの側面から支援することを目的に、次の 3 つの事業をおこなう。信楽焼関係企業と設立したフィンランド・デザイン研究会を中心に、デザイン提供を図りながら現在のトレンドに合った新製品の開発を試みる「デザイン活性化事業」、新しい動物の置物の開発を目的に、製品モデルの公募をおこない、商品化も試みる「デザインコンペ 動物の置物－アニマル・フィギュア」事業、そして、新しい商品サンプルの試作提供をおこなう事業として、「既存製品をベースにした加飾による新製品の開発」を実施する。また流通関係者による地元産業製品の講評会も併せて実施する。

(1) 信楽高校デザイン科外部研修の受け入れ等

伝統的な陶産地である信楽焼の将来の担い手を育成するために、信楽焼伝統工芸士によるやきものへの絵付け実習を信楽高校デザイン科生徒を対象におこなう。アイテムについては、ガーデンファニチャーを中心に絵付けをおこない、完成した製品については、第 4 駐車場脇のバルコニー部分に設置し、広く来園者の休憩スペースとして活用を図る。

<開催期間> 絵付け実習 平成 26 年 2 月～3 月頃

(2) 登り窯・金山窯等焼成事業 (第 2 回信楽まちなか芸術祭関連)

これまで信楽陶器工業協同組合青年部と共同で実施していた登り窯焼成事業に加えて、10 月か

らの第2回信楽まちなか芸術祭の開催に併せて、信楽陶芸作家協会会員や陶芸の森スタジオ・アーティストも対象とし歴史的文化遺産である金山窯も焼成し、従来からの伝統技術の継承に加え、各窯の特徴や歴史を学び、また工業組合関係者、陶芸作家協会、当館スタジオ・アーティスト等の相互の交流を図る。焼成の様子や出来上がった作品については、一般県民への公開もおこなう。

開催時期 平成25年10月

主催 (公財) 滋賀県陶芸の森・信楽陶器工業協同組合青年部・信楽陶芸作家協会、
信楽まちなか芸術祭実行委員会

協力 (公財) 秀明文化財団・信楽まちなか芸術祭実行委員会

(3) デザイン活性化事業

ア. デザイン面からの支援による新商品の開発促進

平成19年度に信楽焼関連企業と設立したフィンランド・デザイン研究会をベースに参画企業を商工両協同組合傘下の企業に呼びかけ、フィンランドだけではなく、陶芸の森のレジデンス事業で来館制作したことのある作家をも含めて、地域産業である信楽焼の企業に対してデザイン面からの支援をおこなう。また最近のデザインの動きの中に、過去の商品デザインを見直しリバイバルさせるという動きがある。今年度は、第2回信楽まちなか芸術祭が開催されることもあり、過去に信楽のメーカーでつくられたガーデンエクステリア、プランター等の大物商品の中でアートの要素の強いもののリバイバルを目的に試作をおこない、芸術祭開催期間中に信楽産業展示館周辺に野外展示することで業界に製品提案するとともに一般県民の関心を高め、商品の販売につなげるよう努める。

イ. デザインコンペ「動物の置物ーアニマル・フィギュア」の実施(第2回信楽まちなか芸術祭関連)

信楽では狸の置物に代表される動物をテーマにしたやきものは人気の商品の一つである。陶芸の森では、現代の生活にマッチしたモダンな「動物の置物」の開発を目的に、試作品の公募をおこなう。

平成25年度は「馬」をテーマに募集し、優れたモデルについては賞を授与し、入賞作品については、第2回信楽まちなか芸術祭開催期間中に信楽産業展示館ギャラリーで展示し一般公開するとともに、信楽の陶器業界で商品化を試みる。

主催 (公財) 滋賀県陶芸の森

後援 信楽陶器卸商業協同組合(予定)
信楽陶器工業協同組合(予定)

協賛 ノーザン・ファーム

ウ. 既存製品をベースにした加飾によるデザイン面からの支援

昭和の時代に販売されていた商品のリバイバルがある種のブームになってきているが、信楽にも昭和期につくられ、当時は販売に結びつかなかった、花器やガーデンセットなどの商品群が各窯元にある。これら当時の商品に加飾など新しい要素を加えデザイン面からの支援をおこなうことで付加価値をつけ、新しい商品群に再構築を図る。

加飾については、アーティスト・イン・レジデンス事業で陶芸の森に滞在したことのある作家を予定している。

(4) 信楽産業展示館の活用

ア. 「しがらきから吹いてくる風 ～日・台交流展」の開催

会期 平成25年5月12日(日)～6月9日(日)

主催 信楽青年寮(社会福祉法人しがらき会)

後援 (公財) 滋賀県陶芸の森、信楽陶器工業協同組合、信楽陶器卸商業協同組合

信楽青年寮で生活する知的障害を持つ人たちによる作品は、ヨーロッパや日本で開催されたアール・ブリュット展で紹介され高い評価を得た。今回、台湾で展示された信楽青年寮の凱旋記念展を信楽産業展示館で開催するに際して、陶芸の森がこれまで取り組んできたアー

ル・ブリュットに関するノウハウを活かして、展示企画や展示作業等に協力をおこなう。

イ. 「信楽焼産業総合展」(信楽陶器商業協同組合主催)への出展

陶芸の森がかかわりデザイン活性化事業で開発した商品や、試作品、また滞在作家が製作したクラフト製品等を、ほぼ常時展示することで業界への発信力を高め新製品の提案のきっかけとする。

ウ. 信楽産業展示館屋外展示(「第2回まちなか芸術祭2013」の関係)

会 期 平成25年10月1日～

主 催 (公財)滋賀県陶芸の森、信楽まちなか芸術祭実行委員会、信楽陶器工業協同組合、
信楽陶器卸商業協同組合

「第2回信楽まちなか芸術祭2013」に併せて信楽産業展示館周辺で火鉢以降についても大型のプランター、水鉢、ガーデンファニーチャー、エクステリア商品、風呂桶などの現代に至るまで続いている「大物づくり」の流れを紹介し、陶芸の森の事業で制作したガーデンエクステリア、プランター等のリバイバル商品の試作品についても展示する。また、展示し商品についてはまちなか芸術祭終了後も展示するものとし商品の販売につなげる。

エ. デザインコンペ「動物の置物ーアニマル・フィギュア」の展示

会 期 平成25年10月1日～

主 催 (公財)滋賀県陶芸の森、信楽まちなか芸術祭実行委員会、信楽陶器工業協同組合、
信楽陶器卸商業協同組合

協 賛 ノーザン・ファーム

IV. 企画事業

【企画事業 3,953千円】

1. ミュージアムショップの運営 【収益事業】

来園者に、より一層陶芸を身近に感じて頂けるようなサービスを展開する。

展覧会図録や陶芸関係書籍およびオリジナルグッズ、特別展関連商品など独自色のある商品の販売を行う。また併せてインターネットの活用したオンラインショップでの商品の提供や販売の促進に努める。

2. その他 【収益事業】

(1) 自動販売機の設置

人々が自由に憩い楽しめるよう公園内に自動販売機を設置し、快適なサービスを提供する。

(2) 宿泊者用寝具の提供

創作研修館宿泊者用に寝具を提供する。

(3) 薪窯燃料の提供

穴窯や登り窯の使用者に対し、燃料を提供する。